

2023 年度 第 2 回にいがた摂食嚥下障害サポート研究会講演会

【日 時】 2023 年 12 月 16 日（土）10：00－17：00 （予定）

【場 所】 新潟大学歯学部講堂，ZOOM による配信のハイブリッド開催

【タイムスケジュール】

9:30 受付開始

10:00 開会挨拶

井上 誠先生 （にいがた摂食嚥下障害サポート研究会会長）

10:05 シンポジウム「摂食嚥下障がい児童に外食の機会を提供するために」

座長 井上 誠先生

（新潟大学大学院医歯学総合研究科摂食嚥下リハビリテーション学分野，歯科医師）

シンポジスト

井上 誠先生（新潟大学大学院医歯学総合研究科摂食嚥下リハビリテーション学分野，歯科医師）

渡邊賢礼先生（昭和大学歯学部口腔衛生学講座，歯科医師）

赤坂紀幸先生（新潟県はまぐみ小児療育センター，小児科医）

11:25 講演「医療的ケア児から看取り期の高齢者まで在宅療養者の暮らしに寄り添う嚥下調整食」

（40 分講演，5 分質疑）

座長 中尾真理先生（東北生活文化大学家政学部家政学科，医師）

講師 塩野崎淳子先生（医療法人豊生会 むらた日帰り外科手術クリニック内機能強化型認定
栄養ケア・ステーション訪問栄養サポートセンター仙台，管理栄養士）

12:10 企業紹介

13:10 講演「神経発達症児の食を楽しんでもらうための偏食・摂食の支援」（40 分講演，5 分質疑）

座長 中尾真理先生（東北生活文化大学家政学部家政学科，医師）

講師 藤井葉子先生（医療法人社団湧泉会ひまわり歯科，管理栄養士）

13:55 講演「摂食嚥下機能障害や機能低下予防に向けた取り組み」（60 分講演，10 分質疑）（リハ・DH 認定）

座長 馬場洋徳先生（新潟大学医歯学総合病院耳鼻咽喉・頭頸部外科，医師）

講師 山根由起子先生（旭川医科大学，看護師）

15:05 休憩

15:15 講演「地域の医療インフラとしての歯科医院」（90 分講演，10 分質疑）（DH 認定）

座長 辻村恭憲先生

（新潟大学大学院医歯学総合研究科摂食嚥下リハビリテーション学分野，歯科医師）

講師 渡部 守先生（まもる歯科，歯科医師）

16:55 閉会挨拶

張替 徹先生 （にいがた摂食嚥下障害サポート研究会副会長）

リハ認定: 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士単位セミナー

DH 認定: 日本歯科衛生士会認定更新生涯研修対象

講演抄録・講師略歴

シンポジウム「摂食嚥下障がい児童に外食の機会を提供するために」 「ばりあふりーお食事会の紹介」

いのうえ まこと
井上 誠 先生（新潟大学大学院医歯学総合研究科摂食嚥下リハビリテーション学分野教授，
歯科医師）

<抄録>

新潟大学大学院医歯学総合研究科では，従来新潟県訪問教育の会様，新潟県医療的ケアの会様，新潟県重症児教育親の会様が主体となって行ってきた障がい児童生徒のための「ばりあふりーお食事会」を，本サポート研究会とともに引き継ぎました．この食事会は，障がい児童生徒さんやそのご家族様が，外食を楽しむために毎年企画されていたものでした．新型コロナの感染症拡大により 3 年間の中止を余儀なくされていましたが，今年，クラウドファンディングの支援を受けて，新たなステージを迎えた食事会の取り組み内容を紹介します．

<略歴>

1994 年 新潟大学歯学部 卒業
1998 年 新潟大学大学院歯学研究科 修了（博士（歯学））
1998 年 新潟大学歯学部口腔生理学講座 助手
1999 年 英国レスター大学 Research fellow
2003 年 スウェーデンウメオ大学 Research fellow
2004 年 新潟大学医歯学総合病院摂食嚥下機能回復部 講師
2006 年 新潟大学大学院医歯学総合研究科摂食嚥下障害学分野（現摂食嚥下リハビリテーション学分野）
助教授
2008 年 新潟大学大学院医歯学総合研究科摂食嚥下リハビリテーション学分野 教授
2023 年 新潟大学歯学部長

「共有する喜び：障害児・者との外食で見つける成長」

わたなべ まさひろ
渡邊 賢礼 先生（昭和大学歯学部口腔衛生学講座，歯科医師）

<抄録>

食事は単なる栄養補給にとどまらず，心の交流と成長の場となります．障害児・者が抱える摂食嚥下機能の課題解決には，時間と忍耐を要しますが，その先にある感動的な成果は計り知れません．安全性が最優先される中で，外食の場での挑戦は個々の可能性を超え，共感と理解を生み出し，心を打つ感動を提供できる重要な機会です．私からは，その現実と課題に焦点を当て，障害児・者の外食への取り組みについて考察します．

<略歴>

2007年3月：昭和大学歯学部卒業
2011年3月：昭和大学大学院歯学研究科 修了
2011年4月：昭和大学歯学部 口腔衛生学教室 助教
2014年4月：新潟大学医歯学総合病院 口腔リハビリテーション科 医員
2014年8月：新潟大学大学院医歯学総合研究科 摂食嚥下リハビリテーション学分野 特任助教
2015年6月：マンチェスター大学 客員研究員
2016年9月：新潟大学大学院医歯学総合研究科 摂食嚥下リハビリテーション学分野助教
2021年4月：昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座口腔衛生学部門 講師
2021年4月：昭和大学歯学部口腔衛生学講座 講師

「はまぐみの紹介と摂食嚥下」

あかさかのりゆき
赤坂 紀幸 先生（新潟県はまぐみ小児療育センター 所長）

<抄録>

摂食嚥下機能は、呼吸と同様に生きるための最も基本的でお子さんが健全な成長・発達をしていくために必要不可欠な機能です。障がいをお持ちのお子さんにとっても同様に重要ですが、様々な問題を認める場合もあります。

新潟県はまぐみ小児療育センター（はまぐみ）においても、お子さんの摂食嚥下機能はとても重要な検討項目の一つです。本日は、はまぐみについても簡単にご紹介いたします。

<略歴>

1989年 新潟大学医学部卒業，同小児科入局
1994年～1996年 国立精神・神経センター武蔵病院 小児神経科レジデント
2002年 国立病院機構西新潟中央病院小児科 医長
2015年 新潟県はまぐみ小児療育センター 診療部長
2016年 同 所長

<所属学会，他>

日本小児科学会 専門医
日本小児神経学会 専門医
日本てんかん学会 専門医指導医
日本人類遺伝学会 臨床遺伝専門医
日本重症心身障害者学会 会員
役員 日本小児神経学会 評議員
日本小児神経学会甲信越地方会 運営委員長
新潟小児神経学研究会 世話人
趣味 軽めの筋トレとジョギング，スポーツ観戦，ネットで英語の勉強

「医療的ケア児から看取り期の高齢者まで在宅療養者の暮らしに寄り添う嚥下調整食」

^{しおのざき}塩野崎 ^{じゅんこ}淳子先生（医療法人豊生会 むらた日帰り外科手術クリニック内機能強化型
認定栄養ケア・ステーション訪問栄養サポートセンター仙台、管理栄養士）

<抄録>

近年、国は在宅医療を推し進めているが、「治らない病気や障害とともに生きる人々」の暮らしを守り、生活の質を高める支援が求められている。演者は現在、3つの診療所に所属して在宅訪問栄養食事指導を行っているが、その約半数が「摂食嚥下障害」を持つ患者である。病院や施設であれば、本人の摂食機能に合わせた食事が提供されるが、主に家族が調理を担う自宅では、嚥下食作りのノウハウだけでなく、生命維持に必要な栄養量の確保すら不十分であることが多い。介護者の経済状況や調理能力も、患者の栄養状態に影響を及ぼしている。限られた条件の中でも、暮らしに寄り添い、美味しく安全に必要な栄養を摂ってもらうために実践していることを紹介したい。

<略歴>

2001年 女子栄養大学実践栄養学部卒業
2004年 長期療養型病院勤務
2008年 訪問看護ステーション併設居宅介護支援事業所
2013年 仙台往診クリニック非常勤管理栄養士
2015年 むらた日帰り外科手術クリニック
2020年 医療法人はるたか会あおぞら診療所ほっこり仙台
2022年 イノマタデンタルクリニック在宅部

現在、医科（高齢者）・医科（小児）・訪問歯科の3つの診療所に非常勤で訪問栄養指導を行っている。
在宅栄養専門管理栄養士
日本在宅栄養管理学会理事 東北ブロック長
日本在宅医療連合学会 評議員

「神経発達症児の食を楽しんでもらうための偏食・摂食の支援」

^{ふじい}藤井 ^{ようこ}葉子先生（医療法人社団湧泉会ひまわり歯科、管理栄養士）

<抄録>

神経発達症児は、偏食や摂食等、食事に課題があり食を楽しめないお子さんも多くいます。原因は口腔機能・感覚や特性・栄養の問題等があり、部分的に治そうとしても影響しあって難しいことが多いです。全体の状況を把握し原因を理解し、得意な部分を利用して支援していくと、自信をつけ、食べることに楽しみやすいです。現在の栄養だけでなく、将来を考慮して食を楽しめる支援を今までの経験含めながらご紹介できたらと思います。

<略歴>

1994年4月 広島市皆賀園
2000年4月 高齢者生活保護施設 救護院（異動）
2004年4月 広島市西部こども療育センター（異動）
2023年8月 医療法人社団湧泉会 ひまわり歯科
生活支援事業所さつきの家 広島西発達支援センターくれよん等

「摂食嚥下機能障害や機能低下予防に向けた取り組み」

やまね ゆきこ
山根 由起子先生 （旭川医科大学教授、看護師）

<抄録>

私はこれまで摂食嚥下機能の獲得から障害になった人、看取りまでを通して、様々な摂食嚥下障害の関わりをさせて頂きました。また、今後も増加する高齢者人口を考慮すると機能低下予防も必要であり、セルフケアで機能低下を予防し、機能障害の人に医療者が多職種で関わることは双方に重要と考えます。そのため、現在はオーラルフレイルの取り組みを行っている最中ですが、可能な範囲でこれまでの活動を共有したいと思います。

<略歴>

愛知県立大学大学院 看護学研究科博士前期課程修了。
病棟勤務では主に名古屋第二赤十字病院の神経センターで十数年勤務。
教育・臨床・研究では日本赤十字広島看護大学助教・「摂食・嚥下障害分野」認定看護師教育課程専任教員、京都府立医科大学医学部医学科 在宅チーム医療推進学(寄付講座) 総合医療・医学教育学教室助教、医療法人社団都会渡辺西賀茂診療所 機能強化型訪問看護ステーションにしがも（非常勤）、京都地域医療学際研究所がくさい病院（非常勤）、日本歯科大学附属病院口腔リハビリテーション科 臨床講師(非常勤)を経て、旭川医科大学医学部看護学科看護学講座教授（現在に至る）

「地域の医療インフラとしての歯科医院」

わたなべ まもる
渡部 守 先生 （まもる歯科院長、歯科医師）

<抄録>

佐渡のような過疎地域では、地域住民を支える医療・介護その他の資源が不足しています。病院が次々に閉鎖され、最寄りの医療機関まで片道1時間以上という集落も多いです。

このようななかでは、私のようないち歯科医師も、自分自身が地域を支える医療インフラであることを自覚せざるを得ませんでした。

でも、一つの小さな歯科医院に、赤ちゃんから看取りまで、地域の口腔の健康や「食」を支えることなんてできるのでしょうか？

失敗と挫折を繰り返してようやく見えてきた地域の歯科医療の在り方について、お話したいと思います。

<略歴>

2002 年 新潟大学歯学部卒
2006 年 新潟大学大学院医歯学総合研究科博士課程修了（摂食嚥下リハビリテーション学分野）
2008 年 渡部歯科医院 院長
2016 年 まもる歯科 院長

博士（歯学）
新潟県歯科医師会地域保健部員
佐渡歯科医師会在宅歯科医療連携室長
日本老年歯科医学会 会員
日本摂食嚥下リハビリテーション学会 会員